

読み手を裏切らない英作文のための3つの質問

山岡大基

本稿では、高校生に対する英語ライティング指導において、3つの質問すなわち“Why so?”、“Such as?”、“And then?”をきっかけとして1文ずつ書き進めさせる指導法について報告する。この指導法は、1文から次の1文への接続を「読み手の予期 (reader expectation)」の観点から説明がつくものにすることを意図している。そうすることによって、書かれた文章に論旨の飛躍がなく、メッセージが間違いなく読み手に伝わるようになる。2023年度は、この指導法を授業および課外のオンデマンド講座において実践し、その効果を確認めるとともに、この指導法に基づく教材を開発した。

1. Coherence からのアプローチ

一般に、英語ライティングの指導では3つの要素を扱うべきとされる。すなわち、cohesion (結束性)、coherence (一貫性)、unity (統一性)である。cohesionは文と文の形式的なつながり、coherenceは文と文の意味的な連続性、unityはパラグラフや文章全体の内容のまとまりを表す。¹⁾

coherenceとunityは、意味的な要素であるため、英語に限らず日本語でのライティングにも関わる。それに対しcohesionは代名詞や語句の言い換え、ディスコース・マーカーといった英語特有の言語材料に依存する。実際の英文の中でcohesion、coherence、unityは互いに連動するので、必ずしも各々の要素を截然と分けることはできないが、指導の力点をどこに置くかという緩やかな区別はできる。

筆者のこれまでの指導では、cohesionに力点を置くことが多かった²⁾。上述の通り、英語科固有の指導内容はcohesionに表れるからである。一方で、文章が一定のまとまりのある思想を伝えるためのものである以上、unityは必然的に前景化される。生徒の書く文章にはunityが欠けがちであり、それに対しては、たとえば“Umbrella Idea”(傘概念)という思考ツールを活用してきた。³⁾

coherenceについても「当たり前のことを書く」という意識を持つように指導してきた。これは、一面では「学力を測るテストの答案という文脈では、これまで誰も思いついたことのない独創的なことを言う必要はない」という一種の解答方略である。しかし、他面では「自分(書き手)にとっては当たり前と思っていることでも、相手(読み手)にとって

は必ずしもそうではない」という警鐘でもある。すなわち、「自分にとって当たり前だからといって不用意に説明を省くと、言いたいことが相手に伝わらなかつたり、誤解を生んだりする危険性があるので、冗長に感じられてもスモールステップの説明を積み重ね、相手との共通理解の基盤 (common ground) を築いていくことが大切」という趣旨である。

市販の教材でもcoherenceに力点が置かれるものは多い^{4) 5)}。特に、接続表現 (transition words, connectives) を用いたcohesionの練習と連動させて「2文単位」でcoherenceのある英文を書くアプローチ⁶⁾は、英語に限らず日本語ライティングでも用いられるようになってきている⁷⁾。coherenceに力点を置く書き方について、守屋(2023)⁵⁾は次のように述べている。

大切なことは、常に自分に「どういうこと? 何が言いたいのか? どういう意味?」と問いかける意識を持つことだ。…(中略)…自由英作文を書く際には、常に目の前に説得したい相手がいるというイメージを持つことが大切だ。

(pp.242-243)

この考え方は、言葉を変えるとreader expectationにかなう、つまり、読み手が文章を読みながら立てる「この次にはこのような内容が述べられるのだろう」と予期に沿うように書くことを推奨するものである。

reader expectationといっても、読み手が次に書かれている内容を正確に予測するというわけではない。文章を読みながら何らかの疑問を抱いた場合、その疑問に対する答えが後続の部分で書かれている

ことを期待するということである。したがって、書き手の視点では、そういった読み手の疑問に対して答えるように文章を書き進めていくことが大切ということである。

2. 3つの質問

reader expectation になうように書くための方略として、2023年度高校Ⅱ年生およびⅢ年生への指導において「3つの質問 (three questions)」を導入した。

「3つの質問」とは、

- ・ Why so? なぜそう言えるの？
- ・ Such as? 具体的には？
- ・ And then? だとしたらどうなるの？

の3つのことである。これらは、読み手が抱く疑問を3つに類型化したものである。⁸⁾ かなり単純化した類型化ではあるが、文章の内容や読み手の背景に応じて読み手の抱く疑問はあまりに多様で、それらを広く取り扱うのは困難であることから、学習の便宜のため、このように簡略化することとした。

一方で、これら3つの質問は、単に読み手の疑問を簡略化したというだけではなく、生徒の思考を導く手がかりとなるような質問となるように工夫している。すなわち、書き手が、自分にとっては自明に思われることを書いている場合、読み手が抱く疑問を想像すること自体が難しいことがあるので、典型的な疑問を示すことで、reader expectation になう文を書く支援となることを意図した。

典型的な疑問として“Why so?”、“Such as?”、“And then?”の3つを設定した理由、およびそれぞれの疑問が果たす機能は次の通りである。

まず、“Why so?”は、述べられた内容の理由・根拠への疑問である。ある言明に対して、それを即座に受け入れず、「本当にそれは正しいのか」「その言明を信ずるに足る根拠はあるのか」と、その言明の正しさを問うている。

次に、“Such as?”は、言明の具体に関する疑問である。言明の正しさを積極的に疑うわけではないが、具体例等を示すことで、受け入れやすくすることを求めている。

最後に、“And then?”は、言明を受け入れたうえで、さらにその続きを求める疑問である。

指導においては、「ある1文を書いたら、その書いたばかりの1文に対してこれら3つの質問を投げかけてみて、それらに答えるように次の1文を書く」という方針を示した。もちろん、常に3つの質問が適用できるわけではないので、その都度、読み手が

抱くであろう疑問を想定して、3つのうちどれかに答えるようにすればよい、という基準とした。

たとえば、“Memorization is important in learning a foreign language.”という1文を書いたとして、これに対して3つの質問を適用してみる。“Why so?”を適用した場合、次の文を、たとえば“(This is because) You cannot communicate smoothly if you do not know words and phrases that others use.”のように書くことができる。文頭の“This is because”は、ここでは説明のため便宜的に置いた表現であるが、実際に接続表現として用いることもできる。また、“Such as?”を適用すると、“(For example) Knowing expressions that are frequently used by native speakers of the language improves your fluency.”のように、あるいは、“And then?”を適用すると、“(Then) You should prioritize memorization since it lays the foundation for communication.”のように書くことができる。

指導においては、「書き手が『今書いた1文を読んだ読み手はどのような疑問を抱くだろうか?』と想像し、それに答えるように次の1文を書きなさい。そして、それを1文ずつ繰り返しながら文章を書き進めていきなさい」と、執筆の方針を示した。

3. 指導事例：オンデマンド講座

「3つの質問」については、高校Ⅱ年生の「論理・表現Ⅱ」および高校Ⅲ年生の「英語表現Ⅱ」での英作文指導に取り入れるとともに、高校Ⅲ年生向けにオンデマンド講座「1文ずつ書く自由英作文」を開設し、体系的な講義と個別指導を行った。本稿においては、このオンデマンド講座での事例について報告する。

このオンデマンド講座は、筆者の開発的実践の一環として開設した。実施形態は次のとおりである。

- 1) 講義動画と教材を Google Classroom 上で配信
- 2) 受講者は各自のタイミングで講義動画を視聴
- 3) 講義動画中で指示される学習に取り組み、添削課題を Google Classroom 上で提出
- 4) 教師（筆者）が個別に添削・解説を入れて返却

講義動画は本課5本と事前課題・事後課題各1本の計7本を配信したので、上の2)～4)は7回繰り返されることになる。

参加は希望制で、高校Ⅲ年生全5クラスに対して講座開設の案内をした。受講人数は、事前登録時(2023年7月)で37名であったが、そのうち添削課

題を1回以上提出したのは11名であった。⁹⁾
講座の概要は次のとおりである。

- 第0講 オリエンテーション・受講前課題
- 第1講 内容編①読み手の知りたいことから書く
- 第2講 内容編②あたりまえのことを書く
- 第3講 言語表現編①前文の語句をリユースする
- 第4講 言語表現編②ディスコース・マーカーを使う
- 第5講 統合編 統一感を演出する
- 最終講 修了課題

1で述べた英語ライティング指導における3つの要素は、おおむね次のように配置されている。

- 第1講・第2講 coherence
- 第3講・第4講 cohesion
- 第5講 unity

「3つの質問」は第1講で扱っている。英語ライティング（自由英作文）においては、reader expectationにこたえることを前提として学習を進めてもらいたいという意図からである。

では、「3つの質問」を指導・学習に取り入れることによって生徒の作文にどのような変化が生まれたかを検討する。ここでは、第0講と第1講で提出された作文を比較する。第0講で提出されたのは「受講前課題」で、これは生徒自身が受講開始時の作文を記録しておくことを主眼とし、事前の指導はない状態で書かれたものである。それに対し第1講で提出されたのは、第1講の学習を踏まえた作文である。以下、生徒の作文について、本稿の趣旨に関わる部分を抜粋しながら検討する。（文に付した番号は筆者によるもので、英語はすべて原文ママである。）

【生徒 A】

受講前課題

ペットを飼うことには、どのようなメリットがあると思いますか。あなたの考えを100語程度の英語でまとめなさい。

- ① I think if I have a pet, I feel happy thanks to it every day.
- ② When I was a child, I had two dogs and I played with them every day.
- ③ One day, I went home with tears in my eyes because I had got a low score on the exam.
- ④ As they took notice of it, they ran toward me and sat on my legs as usual.
- ⑤ I felt happy thanks to them and I was able to start studying again with energy.
- ⑥ In this way,

they made me happy many times and my family too.

(検討)

- ・①から②への移行に飛躍がある。“I feel happy thanks to it every day”という言明に対して読み手が抱く疑問にすぐに答えることなく“When I was a child”というエピソードを始めている。エピソードを最後まで読めば疑問に対する答えは得られるとしても、この2文に限定すると reader expectation にこたえる書き方とは言えない。このような文章展開が認められないわけではないが、そのようにする必然性がないのであれば避けるのが望ましい。
- ・①では“every day”と述べているのに対し、②～⑤のエピソードは1回のできごとであり、整合しない。書き手による自己矛盾でもあるが、“every day”について詳述されるであろうという reader expectation にこたえていないというコミュニケーション上の問題がある。そのことを書き手自身が認識したゆえか、⑥では“In this way, they made me happy many times and my family too.”として、②～⑤のエピソードが一例に過ぎないことを示そうとしているが、それで不整合が正されるわけではない。また、“my family”という初出の情報を最終文で示すのは唐突である。これは unity の問題でもある。

第1講

次の各課題について最初の2文だけ書きなさい。

(a) もし他人の心が読めたらどうなるか、考えられる結果について100語程度の英語で記せ。

- ① I think if you could read others' minds, you can make friends with more people than now.
- ② This is because you would be able to know what others want you to do.

(b) もし全世界の人々がみな同じ1つの言語を使用しているとしたら、我々の社会や生活はどのようになっていたと思うか。

- ① I think if all people of the world used the same language, our life would be less interesting than it is now.
- ② This is because we need some languages to express beautifully our feelings.

(c) 日本政府は同性婚を合法化すべきか。

- ① I think Japanese government should legalize same-sex marriage.
- ② This is because everyone

has right to be happy.

(d) 今後、空き家を活用するとしたら、どのようにすればよいか。

① If we use vacant houses, they should be destroyed and parks should be built. ② This is because the number of places where children can play without worrying has been decreasing and the number of vacant houses has been increasing.

(検討)

- ・いずれの課題においても、①から②への移行で reader expectation にこたえる配慮が見られる。
- ・移行の仕方については、すべて“Why so?”を想定し“*This is because*”で接続しており単調である。他の移行の仕方を意識的に練習する必要がある。
- ・(d)については、「空き家を活用するとしたら」という発題に対して“*they should be destroyed*”と回答しており、問いに答えていない。書き手として、自分の書く文章内での coherence だけでなく、その文章を書く前提となる reader expectation に対しても配慮する必要がある。

【生徒 B】

受講前課題

ペットを飼うことには、どのようなメリットがあると思いますか。あなたの考えを 100 語程度の英語でまとめなさい。

- ① There are two merits to have some pets.
② First, having some pets makes your life more enjoyable. ③ If you were alone in your house, you would feel loneliness. ④ However if you had some pets such as cats or dogs, you would think you are not alone. ⑤ It makes your life more enjoyable.
⑥ Second, you can realize how weak lives are.
⑦ If you had some insects as pets and took care of them, despite of your hard care, the insects would die sooner than you thought. ⑧ It teaches you how weak lives are. ⑨ So, there are merits to have some pets.

(検討)

- ・②から③への移行については、生徒 A の受講前課題と比べると reader expectation への配慮が見られる。すなわち、“*more enjoyable*”という言明に対応して、それがどのような概念を表すのかという読み手の疑問に答えるべく“*alone*”や“*loneliness*”と述べている。
- ・一方で、2つめのメリットを述べる⑥～⑧は、な

ぜそれが“*merit*”と言えるのか説明がない。これは unity の問題であるが、coherence の観点でも、⑧に対する“*And then?*”に答える 1 文を次に書くことができれば、この問題は解消されるはずである。

第 1 講

次の各課題について最初の 2 文だけ書きなさい。

(a) もし他人の心が読めたらどうなるか、考えられる結果について 100 語程度の英語で記せ。

① If you could find other person's feelings, you would become a better person. ② This is because you could find the things which others want you to do, and you could become the person who can do them, which others would like you.

(b) もし全世界の人々がみな同じ 1 つの言語を使用しているとしたら、我々の社会や生活はどのようになっていたと思うか。

- ① If all the people around the world were using a language, the world would be more separated.
② This is because national states would not exist. It makes people gather in smaller communities.

(c) 日本政府は同性婚を合法化すべきか。

① Japanese government should admit same sex marriage. ② If the government admitted it, people who like the same sex could happy marriage.

(d) 今後、空き家を活用するとしたら、どのようにすればよいか。

① If you use some unoccupied houses, you should use it to get money. ② For example, you can rent the houses to someone who wants to stay there.

(検討)

- ・いずれの課題においても、①から②への移行で reader expectation にこたえる配慮が見られる。
- ・移行の仕方については、(a) では“*Why so?*”、(b) では“*And then?*”、(c) では“*Such as?*”を想定しており、さまざまな移行を練習しようとしているのがうかがえる。

以上のように、「3つの質問」を意識することで、reader expectation にこたえるように 1 つの文から次の文へと移行することができるようになり、飛躍の少ない、つまり coherence の向上した文章が書けるようになっている。

なお、生徒 A はこのオンデマンド講座をすべて受講しており、最終講の修了課題を提出している。ここで、その修了課題での作文について、coherenceに限らず cohesion および unity の観点も含めて、受講前課題からの変化について検討しておく。

【生徒 A】

修了課題

① People's lives will be better by having pets. ② First, pets have a positive effect on people mentally. ③ These days, a lot of people live alone. ④ They would be lonely by living alone. ⑤ But having a pet at home will make them less sad. ⑥ It is because Pets sometimes are together with us when we are sad. ⑦ Second, pets also have a positive effect on people physically. ⑧ Many people worry about lack of exercise these days. ⑨ But if you have a dog or other pet that needs to be walked, the problem of lack of exercise is solved. ⑩ In this way, pets have a positive effect on humans both mentally and physically.

(検討)

- ・ ②～⑥で“mentally”の観点から述べ、⑦～⑨で“physically”の観点から述べている。そして⑩で“both mentally and physically”とまとめている。このような文章構成は、unity の面で受講前課題から大幅に改善している。
- ・ ②と⑦で“a positive effect”という表現を繰り返し使うことで cohesion を向上させている。
- ・ coherence の面でも、②の“mentally”に対して③で“live alone”と述べたり、⑦の“physically”に対して⑧で“lack of exercise”と述べたりして、reader expectation にこたえる配慮が見られる。
- ・ 以上のことから、総合的に見て、受講前課題から大きく改善している。

また、同じく受講を完了した生徒 C についても、受講前課題と修了課題を比較する。

【生徒 C】

受講前課題

① I think that there are lots of good points when we have pets. ② One of all is that we can develop our own imagination because the pets can't tell us what they want to do and how feelings they are having. ③ Actually, I have a dog, which sometimes shouts in the night, but I can't understand why

he shouts. ④ Then, I make efforts with my imagination so that I can understand what he hopes. ⑤ Through this experience, I think that if we have pets, we can receive the benefit that we can develop our own ability.

修了課題

① I think that we will come to be able to have considerations by having the pets because we try to know what the pets hope and to make it come true. ② For example, when they bark, we try to know why they bark, and to help them do something that they want to such as eating food or playing together. ③ In addition, we take care of them even if we are extremely busy. ④ That is to say, we consider and do anything for their happiness. ⑤ Thanks to having the pets, we behave in this way. ⑥ Therefore, I think that coming to be able to have considerations is a good point of having the pets.

(検討)

- ・ ①では、受講前課題では“lots of good points”として抽象的に述べていたところを、修了課題では“be able to have considerations”と焦点を絞っている。この変化自体は改善とも改悪とも言えないが、修了課題の方では、焦点を絞ることで、①の後半ですでに“because we try to…”と述べて読み手の“Why so?”に答え、②では、今度は“Such as?”に答えるというように、要領よく reader expectation にこたえる文章展開になっている。そのおかげで、③～④で、さらに別の論点を挙げて、読み手の納得を導くことができています。
- ・ coherence の面では、文から文への移行について、受講前課題でもそれほど飛躍は感じられない。しかし、修了課題では、それがさらになめらかになっている。たとえば、修了課題の③から④への移行では、“That is to say”を用いた「換言」を行っている。これは読み手の理解を確実にしようとする配慮であり、受講前課題には見られない移行の仕方である。

4. まとめと展望

本稿では、高校生に対する英語ライティング指導において、reader expectation にこたえるように1つの文から次の文へと書き進めることで coherence を向上させる工夫について報告した。具体的には、

“Why so?”、“Such as?”、“And then?”という3つの質問に答えるように書くという方法であった。その方法を実際の指導に適用したところ、生徒の作文の coherence が向上する傾向が見られた。

一方で、この実践を通じて、生徒に対してさらなる支援が必要であることもわかってきた。それは、「3つの質問」に対して答えようと次の1文を書く際に用いる接続表現である。高校Ⅱ年・Ⅲ年の生徒は、“Why so?”に対する“This is because”や、“Such as?”に対する“For example”などには習熟している。しかし、それ以外には選択肢が少なく、特定の接続表現を繰り返し使うことで文章が単調になるだけでなく、文章の展開にも制約がかかる場合がある。たとえば、“This is because”だと理由を1つしか述べることができず、主要な理由をまず述べておいて副次的な理由を後から添える、といった展開が作りにくい。しかし、“This is mainly because”を使えば、それが可能になる。

あるいは、接続表現が与えられることで、書くべき内容が思い浮かんでくる場合もある。たとえば、次に何を書けばよいか困っているとき、“And then?”に対応して“By doing so”で次の文を始めるように条件が指定されると、そのことによって文章を書き進めることができる場合が少なくない。

このことから、「3つの質問」に答えるように書きなさい、というだけでなく、具体的な接続表現を示すことで、生徒がより簡便に作文できるようになることが示唆された。

以上のことをふまえ、オンデマンド講座での実践をもとに、通常授業の中で使えるワークブック形式の教材を開発した。教材の詳細は本稿では割愛するが、現段階での構成について、目次のみ以下に示す。

- 1) あたりまえのことを書く
- 2) 第1文を書く
- 3) 第2文を書く
- 4) 第3文以降を書くための3つの質問① Why so?
- 5) 第3文以降を書くための3つの質問② Such as?
- 6) 第3文以降を書くための3つの質問③ And then?
- 7) 文と文をつなげる①「しりとり」方式
- 8) 文と文をつなげる②「あたまとり」方式
- 9) 文と文をつなげる③「むりやり」方式
- 10) まとめの1文を書く

coherence、cohesion、unity の3要素を扱う点はオンデマンド講座と同じである。また、上述の接続表現に関しては「きっかけフレーズ」として具体的な表現を提示することにより、生徒の思考を導

くように工夫をしている。また、本稿では言及しなかったテキスト・タイプにも配慮し、narrative、descriptive、expository、persuasive の4種をすべて練習することができるように配慮している。この教材は、本稿執筆時では、試作の最終段階にあるので、今後調整を重ねて完成させ、実用に供したい。

注

- 1) coherence と unity を区別しない場合もある
- 2) 山岡大基,「パラグラフ・ライティングは「つながり」から「まとまり」へ」, 広島大学附属中・高等学校『中等教育研究紀要』第62号, 2015年71-78.
- 3) 山岡大基,「傘と階段とあたりまえ体操ーアカデミック・ライティング入門のための思考ツール開発」, 広島大学附属中・高等学校『中等教育研究紀要』第68号, 2021年, 111-117.
- 4) 鈴木健士,『自由英作文の合格教室』, KADOKAWA, 2021年.
- 5) 守屋佑真,『これならわかるライティング授業の実況中継』, 語学春秋社, 2023年.
- 6) 石井洋祐,『英文を編む技術』, DHC, 2023年および石井洋祐,『ゼロから覚醒はじめよう英作文』, かんき出版, 2023年.
- 7) 中島博司,『R80 自分の考えをパッと80字で論理的に書けるようになるメソッド』, 飛鳥新社, 2023年.
- 8) 高田貴久(2004) (『ロジカル・プレゼンテーション』, 英治出版)において, 説明を組み立てる論理を“Why so?”と“So what?”で整理するという考え方に着想を得て, 生徒の実際の作文と照合しながら, 英語ライティング指導の目的に合わせて改変した。実際の指導においては“And then?”と等価なものとして“So what?”という表現も用いたが, 英語において使い方に注意の必要な表現でもあることから, 最終的には“And then?”で統一することとし, 本稿もそれに合わせた。
- 9) 講義動画だけを視聴した生徒もいたと思われるが, 把握はしていない。

Three springboard questions to write a reader-relevant essay

Yamaoka TAIKI

Abstract :

This paper reports on a teaching strategy which aims to help Japanese English as a Foreign Language (EFL) high school students develop their essays to meet readers' expectations. The author encouraged his students to write their essays sentence-by-sentence by answering three questions, "Why so?," "Such as?," and "And then?," which are provided as springboards to achieve coherence and reader relevance. This strategy is intended to make the transition from one sentence to another accountable to readers, thus enhancing the communicability of the entire passage. In 2023, the author practiced this strategy in class and in an extracurricular on-demand course to confirm its effectiveness and develop teaching materials based on it.